

調布市シェアサイクル事業実証実験報告書 概要版

令和4年1月
調布市

1. シェアサイクルとは

シェアサイクルとは、ステーション（専用駐輪スペース）間で片道利用のできる自転車サービスです。事前に会員登録をすれば府中市、稲城市、国分寺市、世田谷区、川崎市など、近隣各市はもちろん全国どここのステーションでも貸出・返却が可能です。

調布市では、市民や来街者への利便性・回遊性向上を図るため、市内の駅周辺の駐輪場をはじめコンビニエンスストアなどのサイクルステーションを活用し、電動アシスト自転車のシェアサイクル事業の実証実験を行っています。

利用前に会員登録が必要です。事前に、シェアサイクル事業を運営するHELLOCYCLINGのアプリまたはウェブサイトから登録（無料）を行います。登録後、パソコン・スマートフォンのアプリから予約ができます。利用料金は15分70円と、最大12時間1,000円の2種類となっています。また、1つのアカウントで複数台（同時予約は4台まで）を予約できます。（令和3年10月末時点）

15分あたり ¥70

12時間あたり ¥1,000

▽サイクルステーション(例)



調布市内の状況：

稼働自転車台数…2,323台

ステーション数…74箇所

（令和3年10月末時点）



2. 自転車利用の実態把握（東京都市圏 PT 調査より）

調布市内における自転車利用の特性を把握するため、第6回東京都市圏パーソントリップ調査（平成30年実施）のデータを用いて、調布駅周辺の交通実態を把握しました。

調布市内の代表交通手段分担率を地域別にみると、北部地域以外では鉄道利用が最も多く、北部地域では自転車の移動が最も多くなっています。市全体では、自転車の分担率は約2割となっています。

代表交通手段が自転車の利用目的をみると、帰宅および私事が多いことが分かります。

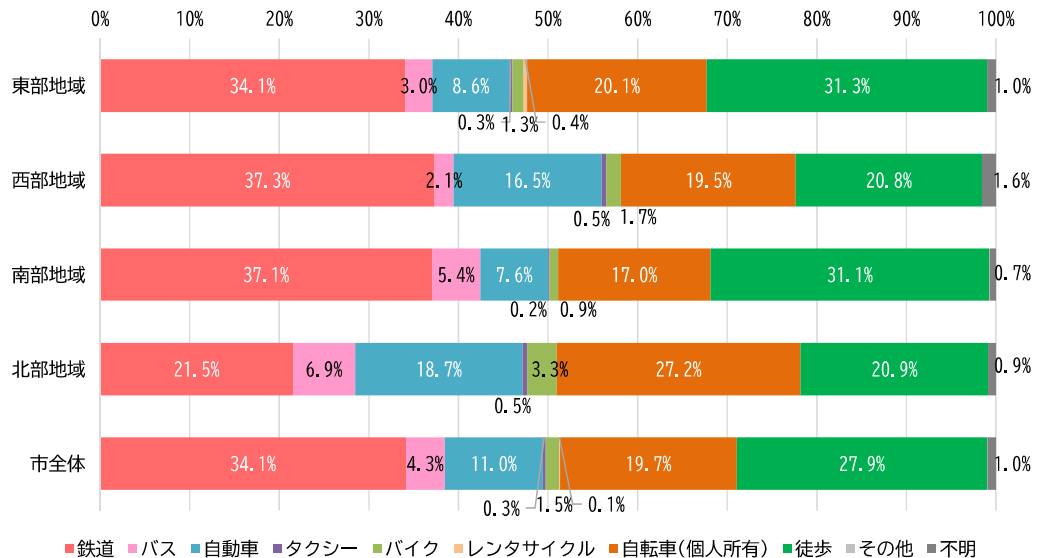


図1 地域別の代表交通手段分担率

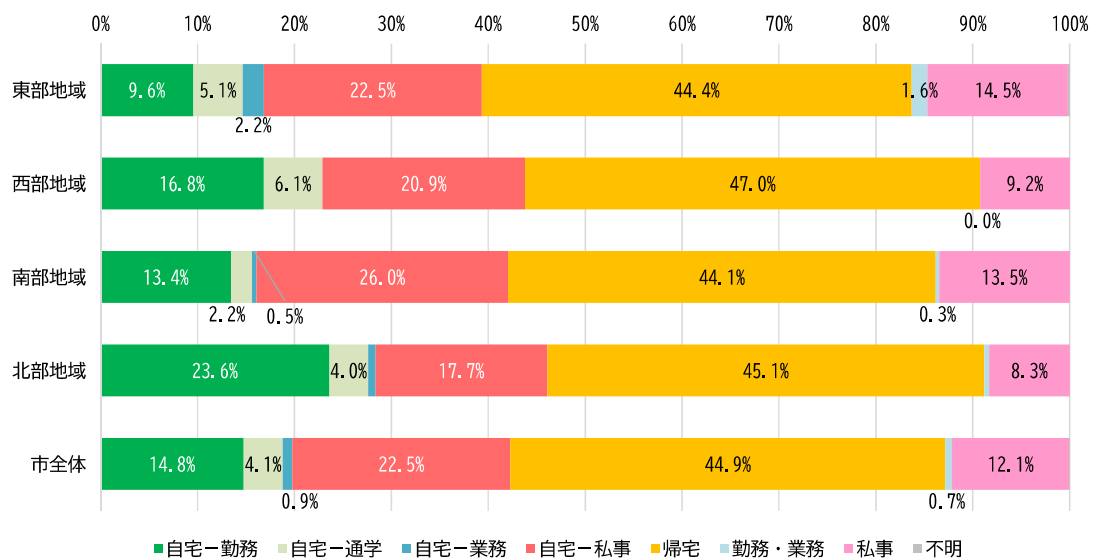


図2 地域別の自転車利用者の利用目的

▽本報告書における調布市4地域



パーソントリップ調査とは、人（パーソン）の1日のすべての移動（トリップ）を把握するものです。「どのような人が」「どのような目的で」「どこからどこへ」「どのような交通手段で」移動したかなどを調べています。鉄道や自動車、徒歩といった各交通手段の利用割合や交通量などを求めることができ、将来のまちづくりや交通計画の検討に用いられています。



3. シェアサイクル事業における利用実態把握

3-1. 月別利用者数、月別利用回数の推移

シェアサイクルの実績データから月別利用者数をみると、実証実験開始の平成31年4月の501人から増加しており、令和3年10月末時点で4,897人と実験開始時の約10倍となっています。

月別利用回数も平成31年4月の1,449回から増加傾向にあり、令和3年10月末時点で約12倍の17,764回となっています。

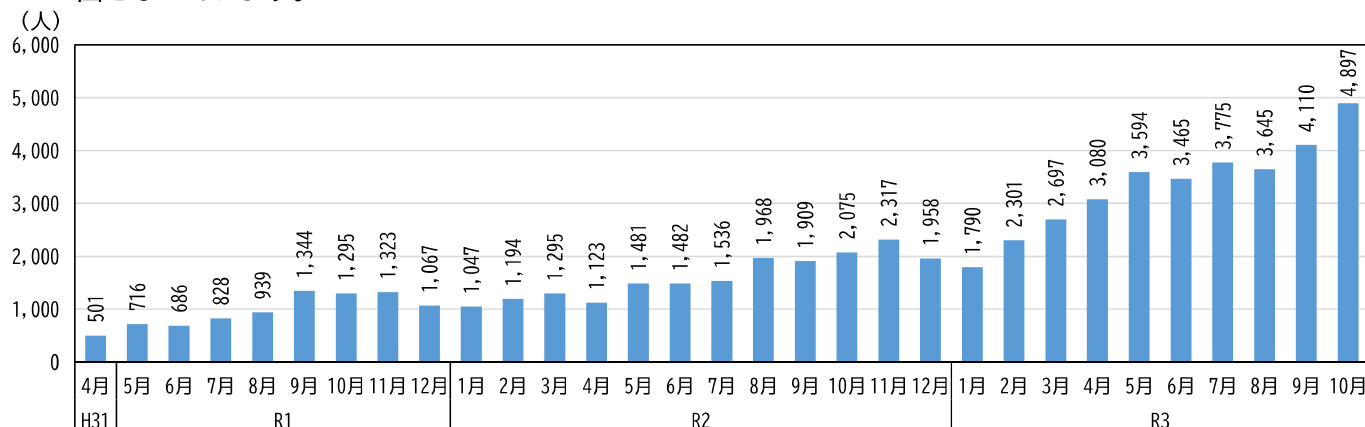


図3 月別利用者数の推移

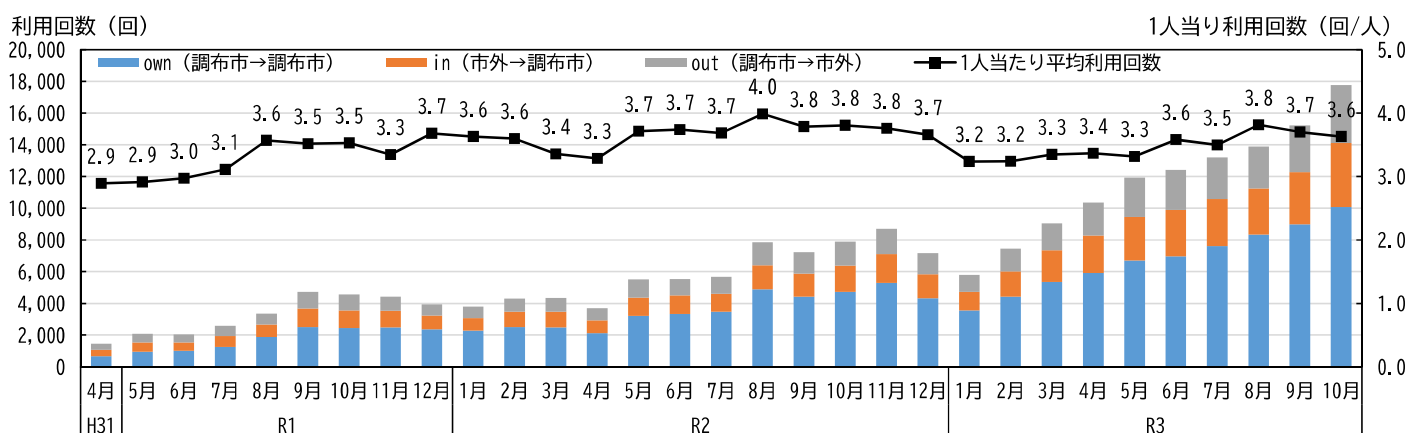


図4 月別利用回数の推移

3-2. 自転車台数・自転車回転率の推移

月別稼働自転車台数の推移は、実証実験開始の平成31年4月の358台から増加傾向にあり、令和3年10月末時点で2,323台と、約6倍となっています。

1日に1台の自転車が利用された回数を示す（自転車回転率）では、平成31年4月の0.13回／台・日から令和3年10月時点で0.25回／台・日と増加しているものの1.0回／台・日を下回っており回転率は低くなっています。

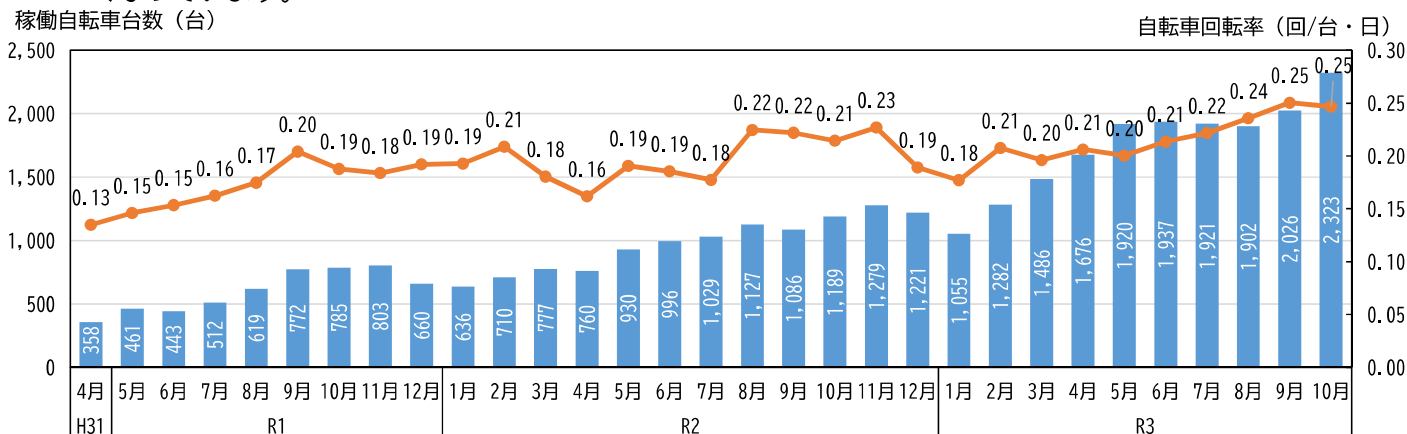


図5 月別稼働自転車台数・自転車回転率の推移

4. サイクルステーション間の移動実態

4-1. サイクルステーションの発生集中量

発生集中量が最も多いステーションは、調布駅に近い「調布市立調布南第2自転車駐車場」の5,095回／月、次いで多いのは「ローソン 調布多摩川1丁目店」の1,010回／月、「アップルパーク調布駅第1駐輪場」の981回／月となっています。

駅付近のステーションや、甲州街道や鶴川街道周辺のステーションで多く利用されています。

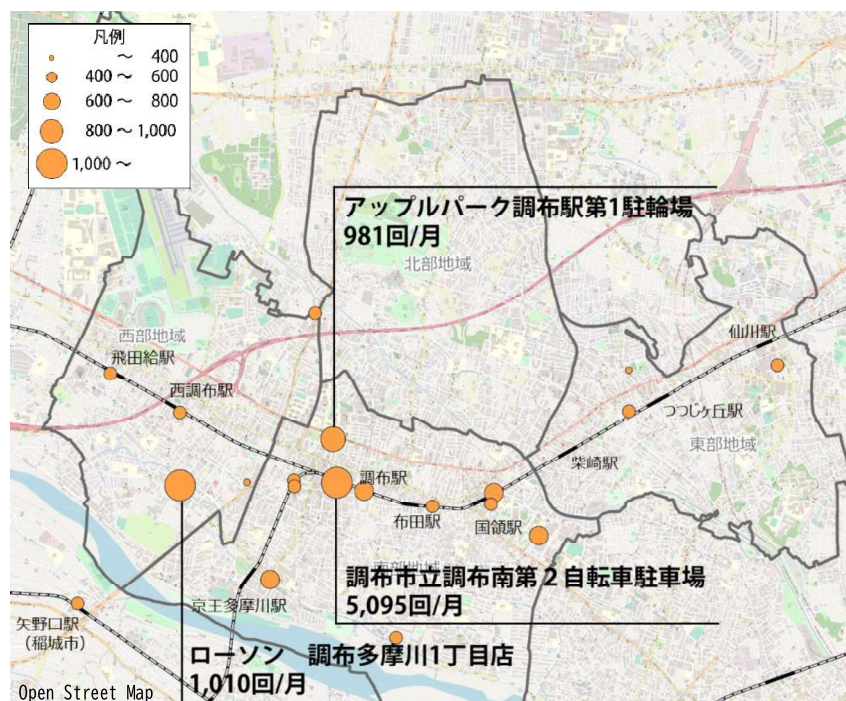
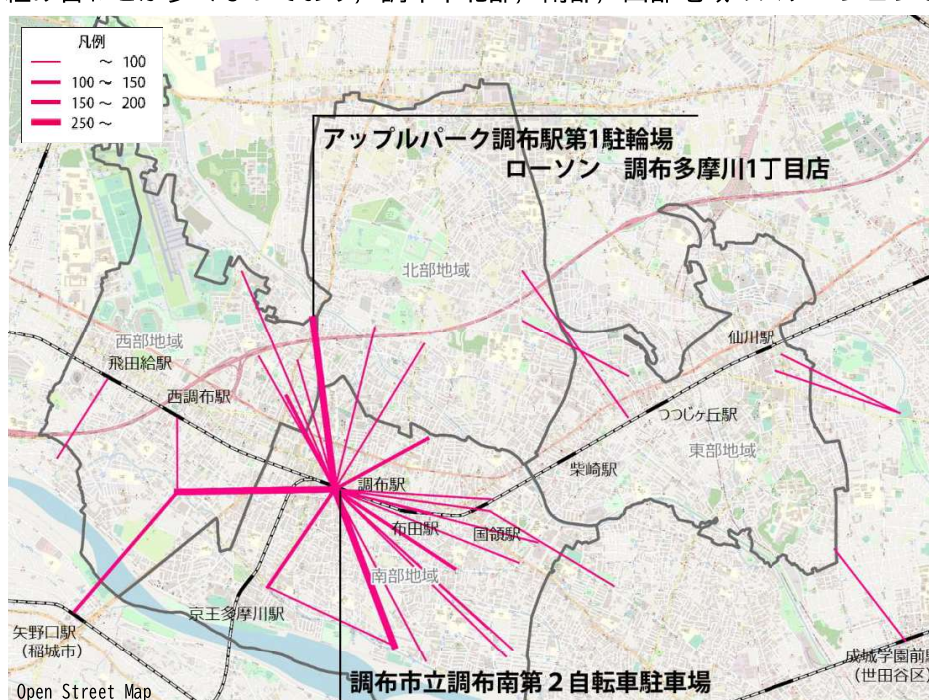


図6 発生集中量の分布（令和3年10月・全日）

4-2. サイクルステーション間の移動

利用回数が30回／月以上※のステーション間の移動をみると、「調布市立調布南第2自転車駐車場」を発着とする組み合わせが多くなっており、調布市北部、南部、西部地域のステーションを結んでいます。



※利用回数30回/月以上：およそ1日に1回は利用があると想定

図7 利用回数30回／月以上の移動（令和3年10月・全日） 同一ステーション発着は除く

4-3. エリア別の移動

ステーションのエリア別に移動の状況を見ると、東部地域と南部地域では同一エリア発着が最も多く、西部地域と北部地域では南部地域での発着が多くなっています(図の黒太枠)。

調布市外との移動をみると、世田谷区が23.0%で最多となり、府中市(18.1%)、川崎市(14.2%)と続いて多くなっています。

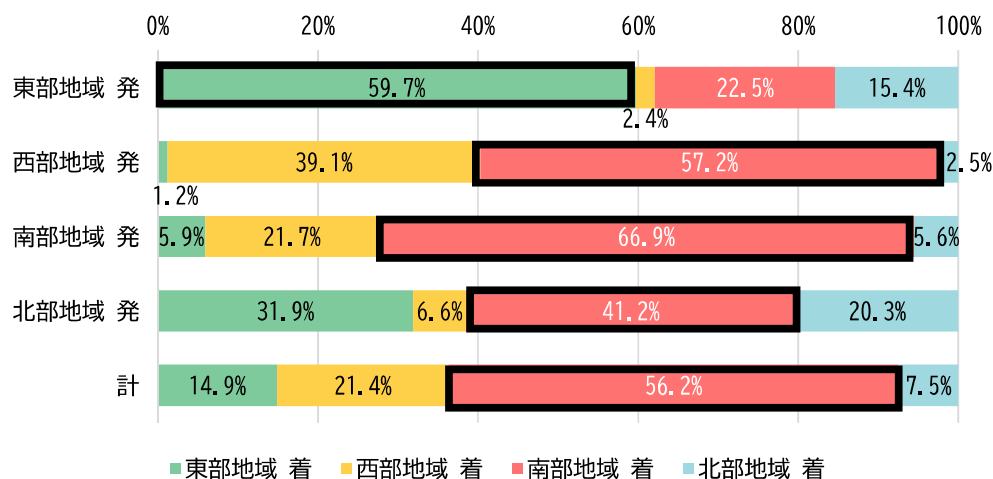


図8 調布市内々の発着ステーション(地域別) (令和3年10月)

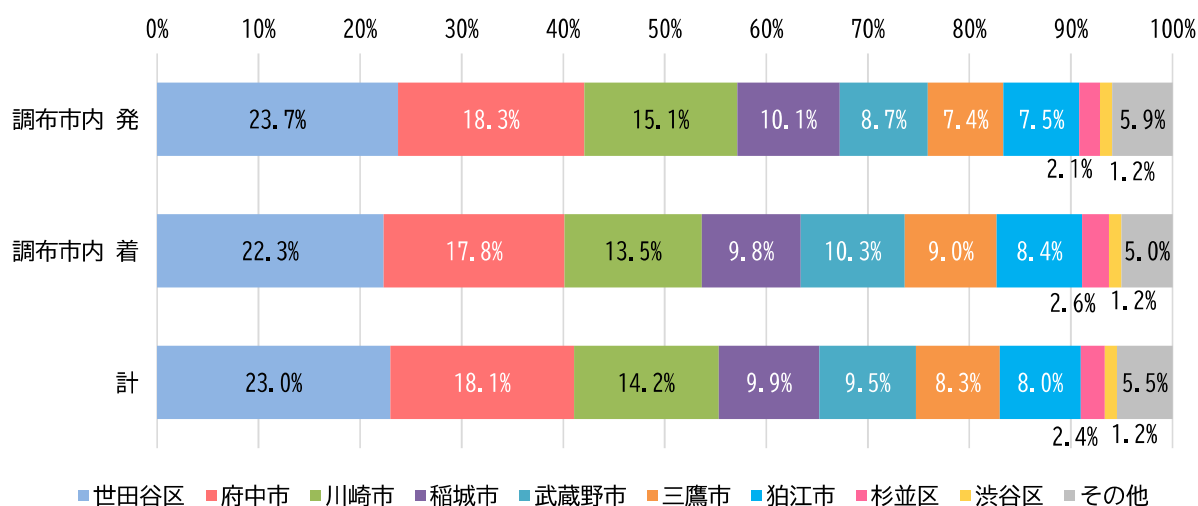


図9 調布市→市外, 市外→調布市内の発着ステーション (令和3年10月)

▽サイクルステーション(例)



シェアサイクルは、市民はもとより仕事や観光などで調布市を訪れる方の移動手段として、また災害発生時や公共交通不通時の代替となる交通手段としても有効な活用が期待できます。



5. シェアサイクル事業のニーズ把握

5-1. 利用者アンケート

シェアサイクル利用者の意向・目的・交通行動の変化などを把握するために、実際に市内でシェアサイクルを利用している方を対象にWEB アンケート調査を実施しました。

回収期間：令和3年10月15日～10月21日

調査対象：令和3年7～9月に調布市内でサービスを利用した7,341人

有効回答：463人



約9割がシェアサイクルに「満足」

市全体でのシェアサイクルに対する評価は、満足・やや満足を超すと約9割となりました。居住地別にみると、北部地域で「やや不満」が他の地域に比べて高くなっていますが、全体的に満足度は高くなっています。

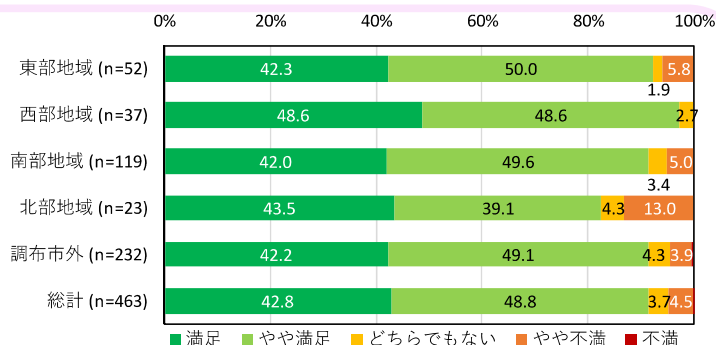


図10 シェアサイクルに対する評価



シェアサイクルの利用目的は「買い物など」が最多

シェアサイクルの利用目的を尋ねたところ「買い物などの日常利用」が最も多く、次いで「通勤」，「観光、レジャー」が多くなっています。

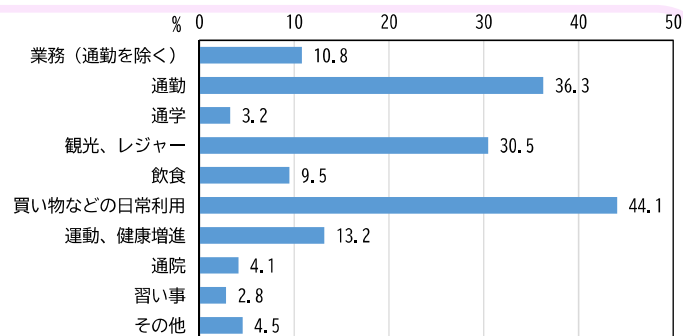


図11 シェアサイクルの利用目的（複数回答）



シェアサイクル利用により「行動範囲が広がった」

シェアサイクル利用による行動変化を尋ねたところ、「行動範囲が広がった」が最も多く、次いで「公共交通（鉄道・バス・タクシー）の利用が減った」，「立寄る場所が増えた」となっています。

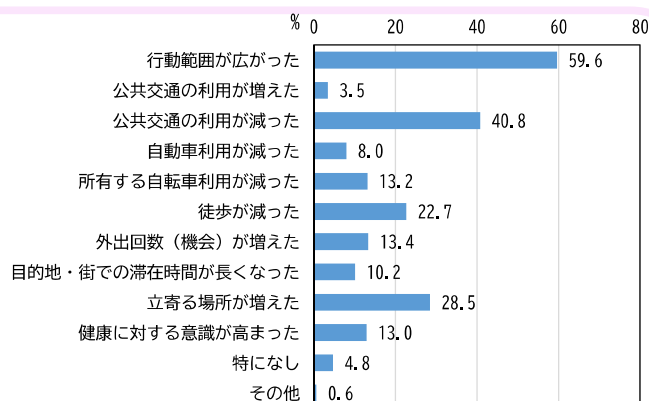


図12 シェアサイクル利用による行動変化（複数回答）



「駅・バス停」「商業施設」などにステーションを拡大してほしい

サイクルステーションを新設・拡大して欲しい施設は「駅・バス停」が最も多く、次いで「商業施設」，「観光スポット」，「公園」となっています。

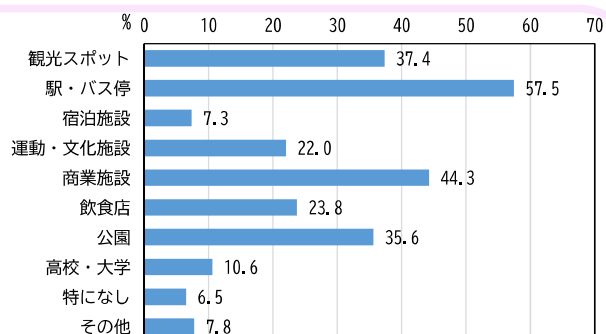


図13 サイクルステーションを新設・拡大して欲しい施設（複数回答）

5-2. 非利用者アンケート調査

シェアサイクル非利用者の意向・改善点・交通行動の変化などを把握するために、シェアサイクルを利用していない人を対象に WEB アンケート調査を実施しました。

回収期間：令和3年11月5日～11月8日

調査対象：調布市在住でシェアサイクル未利用の人

サンプル数：400人（性別・年代で偏りのないよう均等に取得）

アンケートの冒頭には、シェアサイクルの説明を設けました。



非利用者でも認知度は8割以上

シェアサイクル事業を知っているかどうか尋ねたところ「知っている」が82.3%、「知らない」が17.8%となり、非利用者でも約8割が認知しています。

居住地別でみると、北部地域の認知度が最も高くなっています。

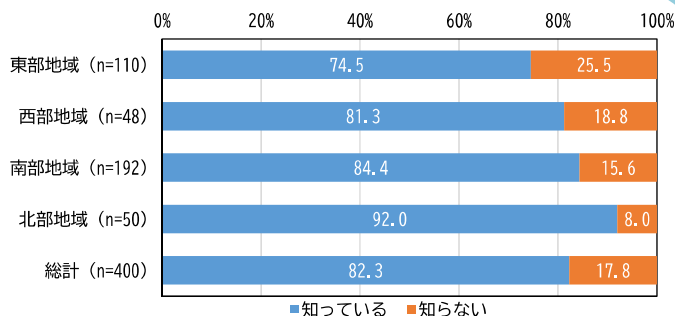


図14 シェアサイクル事業の認知状況（地域別）



「利用したい」は約4割

シェアサイクルの利用意向は、「利用したい」が41.0%、「利用したくない」が59.0%となっています。

自転車の所有による違いはさほど見られず、自転車を所有していてもシェアサイクルの利用意向は高くなっています。

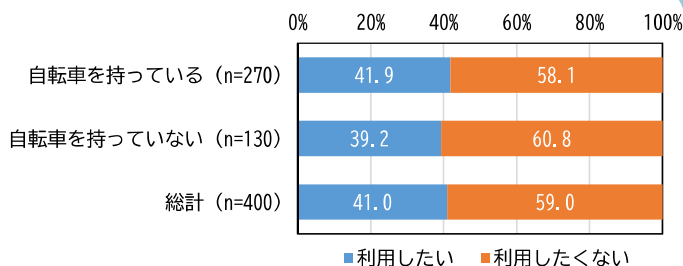


図15 シェアサイクルの利用意向（自転車所有別）



「観光・レジャー」、「買い物など」で利用したい人が最多

シェアサイクルを「利用したい」と回答した方の利用目的は、「観光、レジャー」が6割台半ばで最も多く、次いで「買い物などの日常利用」が4割台後半となっています。

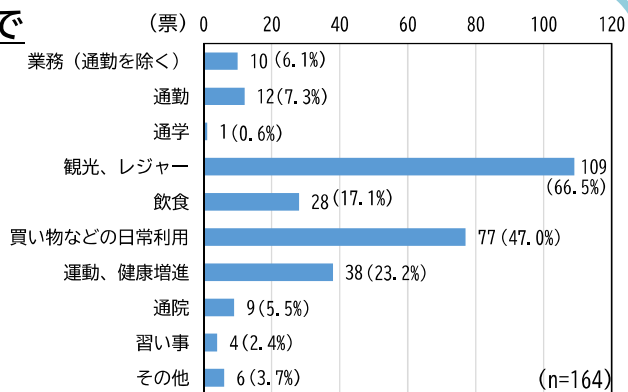


図16 シェアサイクルの利用目的（複数回答）



「交通施設」にステーションを拡大してほしい

ステーションがあれば良いと思う場所を尋ねたところ、「交通施設」が130票で最も多く、次いで「観光施設」、「商業施設」、「公共施設」と続いています。

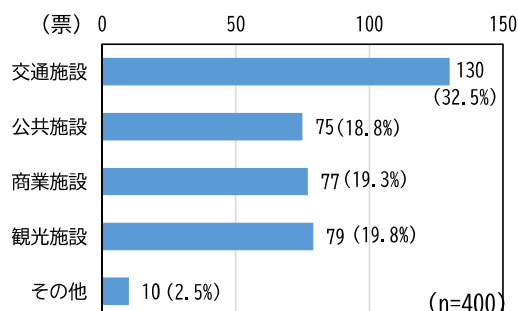


図17 サイクルステーションがあれば良いと思う場所（複数回答）

6. 自転車シェアリング事業の今後の在り方検討

6-1. シェアサイクル事業の現状と課題

現状	課題
✦ 利用者、利用回数、ステーション数および稼働自転車台数は増加 ✦ 利用者の満足度は約9割と非常に高く、行動範囲の拡大やトリップが増加 ❗ 自転車回転率が1日当たり0.25回/台と、4台中1台しか稼働していない状況 ❗ 「ステーションが満車で返却できなかった」「使いたい時に自転車がない」という意見 ❗ 買い物、観光・レジャーでの利用希望が多く、深大寺など北部地域への設置の要望 ❗ 鉄道駅を発着する移動をはじめとした交通施設での利用が最も多く、次いで観光地、商業施設や公園など ✦ 非利用者の認知度が高く、街中のステーションや走っているシェアサイクルを見て認知している人が多い ❗ 非利用者の利用意向は低く、年齢層が上がるにつれて利用意向が低下 ❗ 「バッテリー切れや自転車が故障している」といった、車両のメンテナンスに対する意見	→ 自転車回転率の増加、利用実態に合った運営 ・シェアサイクルの再配置やステーションのラック数の増加など → 北部地域でのステーション不足、観光・レジャー施設のステーション設置 ・要望が高い地域へのステーションの設置や利用状況に応じた適正配置の検討 ・観光・レジャーなどさらなる利用促進 → さらなる利用者の増加とシェアサイクルの周知啓発 ・認知度は高いが利用意向は低く、さらなる周知啓発が必要と考えられます → 車両の適切なメンテナンス ・継続的なメンテナンスの向上を図ることにより、リピーターの増加や利用促進に繋がると考えられます

6-2. シェアサイクル事業の今後の在り方

(1) 今後の在り方

→今後も引き続き事業を継続

シェアサイクル利用者は増加傾向にあり、満足度も高い状況にあります。シェアサイクルは市民の移動に資する手段であり、鉄道・バス等の補完的な手段、地域の発展等にも繋がっている状況にあるといえます。今後も継続的に事業を行うためには、前項で挙げた課題の解決に向けた取組を検討・推進する必要があります。

(2) シェアサイクル事業の対応策

市が実施する対応策

- ・シェアサイクルの周知啓発、利用促進
- ・市内、周辺地域の観光施設等との連携



シェアサイクル事業者に実施を働きかける対応策

- ・シェアサイクルの再配置、ステーション設備の検討
- ・サイクルステーションの適正配置検討
- ・シェアサイクル車両のメンテナンス向上

(3) シェアサイクル事業の継続による調布市に与える影響

- ・自転車利用者の満足度向上 事業への市民満足度の増加や新たな交通手段として定着することを期待
- ・健康問題や環境問題への寄与 ... 自転車利用により市民の健康増進や環境問題へ寄与すると期待
- ・観光振興への寄与 市内や隣接市区からの回遊により、観光振興への寄与や活性化を期待
- ・災害発生時の移動手段への寄与 ... 市民や職員等の移動手段の確保により、経済活動の維持に期待

令和4年 1月発行

調布市 都市整備部 交通対策課
TEL : 042-481-7420 FAX : 042-481-6800
E-MAIL : koutuu@w2.city.chofu.tokyo.jp

登録番号
(刊行物番号)

2021-175

